

第 1204 回放送分『子宮頸がん』5 回目

ゲスト：小林裕明ドクター

二見いすず

今月のドクタートークは「子宮頸がん」をテーマにお送りしています。

お話は、3月まで鹿児島大学医学部産科婦人科にいらっしゃった

小林裕明（こばやし ひろあき）ドクターです。

小林さん、最終週もよろしくお願いいたします。

小林裕明Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

今週は検診についてお話しいただくということでした。

小林裕明Dr.

はい。これまでの子宮頸がんの検診は、

子宮の出口をこする細胞診という検査のみでした。

しかし実は HPV に感染しているかどうかを検査した方が

より多くの子宮頸がんやその前がん病変を見つけるというのが世界の常識です。

それで日本も 11 年ぶりにガイドラインを変えてくれて

30 歳以上は HPV 検査から始める頸がん検診へ移行するよう、

全国の自治体に指示がでました。

二見いすず

30 歳未満はこれまでどおりの細胞診ということなんですね？

小林裕明Dr.

はい。20 代は誰もが HPV を初めて受け入れて自然治癒する途中のため、

多くが HPV 検査に引っかかるということで、30 歳以上となっています。

よって 20 代は細胞診を受けることが引き続き大事です。

HPV 検査には、いろんな企業からの検査キットが出ているのですが、

幸い鹿児島県は、HPV の型判定に長けたオンクラリティというキットを

多くの検診機関が採用して下さっています。

他県では発がん性の HPV に感染しているかどうかしか分からないキットを

お使いの所もあるので、国が推奨した検診のスケジュールは、

型判定ができないキットに合わせて作成されています。

HPV の型別判定で発がん性のリスクが分かれば、検診者にとってより安心で、

自治体にとってもコストが節約できる検診が可能となります。

日本はもちろん、アジアのデータもまったくなかったので、

オンクラリティのキットを使った大規模な臨床試験をして、

鹿児島県独自の検診体制を作ろうと始めたのが鹿児島スタディです。

二見いすず

これはどのくらいの規模でされているのでしょうか？

小林裕明Dr.

鹿児島市で健診を受ける 30 歳から 65 歳までの女性を対象にして、
3 万人のデータを目指しています。

2024 年 12 月から始めているのですが、この大規模臨床試験に参加していただくと
通常 4 千円から 8 千円の HPV 検査が千円の自己負担で追加が可能です。

二見いすず

これでそもそも HPV に感染しているのか。

そしてそれがどの HPV の型かまで分かるということですね。

小林裕明Dr.

はい。今はまだ臨床試験の時期なので、

従来の細胞診に加えたオプションとして行っています。

細胞診の結果は正常なのに、実は発がん性の高い型の HPV に感染していて、

さらに精密検査をすると前がん病変や子宮頸がんが

見つかる方を見逃がさないよう改良するという訳です。

二見いすず

よく分かりました。今月は「子宮頸がん」をテーマに

小林裕明ドクターに貴重なお話をさせていただきました。

小林さん、ありがとうございました。

いままでのお話をより詳しく知りたい方は、鹿児島大学産科婦人科教室のホームページに、小林先生の講演
がスライド付きで公開されていますので、ぜひご覧ください。

小林裕明Dr.

ありがとうございました。

<鹿児島大学医学部産科婦人科学教室ホームページ内>

「2026 年鹿児島県民公開講座 子宮頸がんの撲滅に向けて ～ワクチンと検診の重要性～」

【ホームページ URL】 <https://www.obgy-kagoshima.jp/news.html>